

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	鉛製給水管布設替事業	会計	水道事業	事業No.	291	施策順No.	45-005
		事業種別	政策・重点	予算科目	2-1-2-29--		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	水道課		
施策	45 居住基盤の向上		事業期間	開始	18	終了	28

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	上水道区域内の鉛製給水管とそれを使用しているお客様(市民)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)						
	意図	鉛製給水管を布設替することにより、安全な水道水の供給を行う						
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)						
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	鉛製給水管の残存戸数		19000			0		
	鉛製給水管を使用しているお客様(市民)数×鉛製給水管の残存戸数×(給水人口/給水栓数)		47200			0		
		19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	
	布設替率(%)=布設替した鉛製給水管の戸数/事業当初の鉛製給水管戸数	14.4	26.5	37.5	48.6	43.6	60	
							目標達成度 C	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	事業対象区域内に残存した鉛製給水管が見込みより少なかったため、解消件数では目標に達しなかった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	配水本管から量水器までにある鉛製給水管を、計画的に布設替し、安全な水道水の提供を行う。 ・他事業等に伴わない単独の鉛製給水管布設替を砂払浄水場系統から順次行う。 ・老朽配水本管の布設替に伴う給水管切替工事で鉛製給水管の布設替を旧市内を中心に行う。 ・下水道工事、ガス工事等の他事業工事に伴う給水管切替工事で鉛製給水管の布設替を全市域で行う。 ・公道分漏水修理工事に伴い鉛製給水管の布設替を全市域で行う。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 鉛製給水管布設替事業 820件 (1)鉛製給水管単独布設替 上郷地区重点 580件 (2)老朽配水管布設替に伴う布設替 旧市内地 240件 2 他事業に関連して行う布設替 330件 (1)他事業関連配水管布設替に伴う布設替 40件 (2)漏水修理、宅内改造等に伴う布設替 290件 1+2の合計 1,150件 ※砂払浄水場区域内で単独布設替工区、老朽管布設替工区あわせて約2,300水栓を事業対象として鉛製給水管の残存状況を確認	1鉛製給水管布設替事業 2他事業に関連して行う布設替 合計	820件 330件 1,150件
	23年度実施計画	1 鉛製給水管布設替事業 1,600件 (1)鉛製給水管単独布設替 上郷・座光寺・鼎地区 (2)老朽配水管布設替に伴う布設替 旧市内地 2 他事業に関連して行う布設替 500件 (1)他事業関連配水管布設替に伴う布設替 (2)漏水修理、宅内改造等に伴う布設替 1+2の合計 2,100件	1鉛製給水管布設替事業 2他事業に関連して行う布設替 合計

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金				一般財源は、一般会計の事業費に対する1/2補助金
	特定財源内訳、補足事項	県支出金				
		起債				
		その他	99,000	59,517	99,000	
		一般財源	99,000	59,516	99,000	
	計(A)	198,000	119,033	198,000		
	正規職員所要時間		2,000			
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)		7,152			
	トータルコスト A+B		126,185			

4 事業に対する市民や議会の意見

布設替による早期解消を望んでいる。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞在者、事業者の生活・事業に必要な基盤が整う。	施策の成果指標又はムトス指標	居住基盤の満足度
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	鉛製給水管を布設替えすることにより、安全な水道水の供給するために必要な基盤整備が進んだ。		居住環境に対する市民の満足度
	後期に向けた課題	計画的に早期に実施する必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	工区設定や設計の際に給水関係書類の事前調査を実施している。		
	後期に向けた課題	事前に鉛製給水管残存状況を正確に把握できないため、設計段階での解消見込み件数が、成果の件数に結びつかない。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	計画的な工区設定及び施工を実施した。また他の公共事業等の工事にあわせ施工を行った。		
	後期に向けた課題	より効率のよい工事発注方法の検討が必要である。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	鉛製給水管を早期解消するためには、水道局で積極的に施工(費用負担)することが必要である。受益者の費用負担も漏水時の修理負担範囲を踏襲しており適切と判断する。また、対象者からの理解も得られている。		
	後期に向けた課題	特になし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	給水管はお客様の財産であることから、給水管の所有者も多様な主体となる。量水器から所有者側の鉛製給水管の布設替えについては費用負担をいただいている。水道局としても説明会において布設替えの必要性を説明するとともに、布設替えに伴う部材費について差が出ないよう統一単価を設定している。		
	後期に向けた課題	引き続き布設替えに対する理解をいただく。		
全体を通じて	4年間の振り返り	当初調査により推計した鉛製給水管の残存件数を成果目標としているために、成果指標が実態と乖離している可能性がある。		
	後期に向けた課題	当初の鉛製給水管の残存数が推計であることから、より正確な進捗状況の把握方法として、鉛製給水管が残存すると想定される地区の全水栓のうち、鉛管が存在しないことが確認できた件数の割合も把握する必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--